

# GUNMA PAZ UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

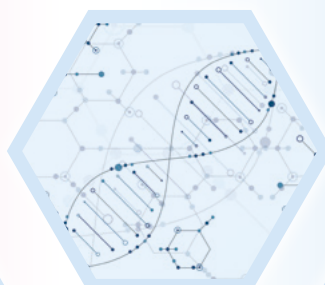
## 群馬パース大学大学院



博士前期課程



看護学領域



病因・病態  
検査学領域



リハビリテーション学領域



放射線学領域



臨床工学領域



公衆衛生学領域

博士後期課程



医療科学領域

GUIDE 2027

高度な保健医療の専門知識と実践能力を身に付けワンランク上の指導者を目指す方、さらに未来の保健医療を拓く、独創性・創造性に優れた研究能力を持つ研究者や教育者を目指す方のための大学院です。

群馬パース大学

Gunma PAZ University

群馬パース大学大学院

Gunma PAZ University Graduate School

保健科学研究科 保健科学専攻

## 博士前期課程

Master's Program

- 看護学領域 【学位：修士（看護学）】
- リハビリテーション学領域 【学位：修士（リハビリテーション学）】
- 病因・病態検査学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 放射線学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 臨床工学領域 【学位：修士（医療技術学）】
- 公衆衛生学領域 【学位：修士（公衆衛生学）】

【修業年限】 2年 ★長期履修制度あり ★特待生奨学金制度あり

【募集人員】 8名

## 博士後期課程

Doctor's Program

■ 医療科学領域 【学位：博士（医療科学）】

- ・生体分子 ・病原体遺伝子 ・細胞機能
- ・生殖補助技術 ・生体機能

【修業年限】 3年 ★長期履修制度あり

【募集人員】 2名

## 学長メッセージ



本学の大学院では、人間の健康に関わる問題とその多面的要因に関わる探求において、各専門分野の知識・技術を取り入れた総合的アプローチが実践できる医療人を養成しております。博士前期課程（看護学領域、病因・病態検査学領域、放射線学領域、臨床工学領域、リハビリテーション学領域、公衆衛生学領域）では、特徴ある教育カリキュラムにより2年間の教育、研究を通して自身の適性に合致した進路を選択することができ、それぞれの領域の修士号を取得できます。また、博士後期課程では、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」に焦点をあて、病気の予防や健康増進のための科学的エビデンスを構築しながら、国際的に通用する研究者、教育者の育成を目指しております。3年間の教育、研究を通して医療科学の博士号を取得できます。常に“Science”を意識しながら、学問を追い求める皆様のご入学を心待ちにしております。

学長 藤田 清貴

## 保健科学研究科長メッセージ



本研究科は、保健科学に共通する高度な学術的基盤と倫理観、優れた創造性、専門分野の深い知識や高い技能を身に付け、次世代を担う人材を輩出し、保健医療の発展と人々の幸福に貢献することを目指しています。博士前期課程では、保健科学を看護学、リハビリテーション学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、公衆衛生学の立場から探究します。課程修了後は、博士後期課程に進み、さらに研究能力を高めていくことはもちろん、教育者、臨床現場での高度な実践者、指導者としても多様な道が開けます。博士後期課程では基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能の分野において、国際的に通用する研究遂行能力の獲得を支援します。それぞれの分野の先端を切り開いていく気概のある方を歓迎いたします。私たちと一緒に保健科学の未知を探究しませんか。

保健科学研究科長 矢島 正栄

## CONTENTS

Gunma PAZ  
University  
Graduate School  
2027

博士前期課程 .....	03
カリキュラム／履修モデル .....	05
博士後期課程 .....	07
カリキュラム／履修モデル .....	08
特別研究指導教員 .....	09
入試概要 .....	13



# 博士前期課程

【修業年限】2年 ★特待生奨学金制度あり (P14 参照)

★長期履修制度あり (裏表紙参照)

【募集人員】8名

領域	学位
■ 看護学領域	修士(看護学)
■ リハビリテーション学領域	修士(リハビリテーション学)
■ 病因・病態検査学領域	修士(医療技術学)
■ 放射線学領域	修士(医療技術学)
■ 臨床工学領域	修士(医療技術学)
■ 公衆衛生学領域	修士(公衆衛生学)

群馬パース大学大学院博士前期課程は、保健科学を看護学、リハビリテーション学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、公衆衛生学の立場から探究するとともに、その融合並びに関連する他の専門領域を含む地域保健医療システムを研究対象とし、人間の健康に関わる問題とその多面的要因に関わる探究において、各専門分野の知識・技術を取り入れた総合的アプローチが実践できる医療人(指導者)の育成を目指します。

## 教育目標

学士課程で修得した知識、技術を基盤に、幅広い見識と高度な倫理観、科学的思考力、実践・教育・研究能力を育み、保健・医療の実践現場において活躍する実践者、指導者、教育者及び研究者を育成します。

- ① 高度な専門知識・技術を有し、科学的根拠と倫理的判断に基づいて質の高い保健医療サービスを提供できる実践者の育成
- ② 保健医療分野における幅広い見識と優れた判断力を有し、リーダーシップと調整能力を發揮できる指導者の育成
- ③ 保健医療の現場における専門分野の現任教育を推進し、または大学等において専門分野の基礎教育を実施できる教育者の育成
- ④ 博士後期課程の教授研究の基盤となる研究能力を有し、保健医療の現場において生じる問題の解決を図るための実践研究を自立して遂行できる研究者の育成



## DIPLOMA POLICY

## ディプロマ・ポリシー

[ 修了認定・学位授与の方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士前期課程においては、次の能力を身につけていると認められた者で、かつ所定の単位を修得し、学位論文審査に合格した者に対して修了を認定し、修士(看護学)、修士(リハビリテーション学)、修士(医療技術学)もしくは修士(公衆衛生学)の学位を授与します。

- ① 高度な専門知識・技術を有し、科学的根拠と倫理的判断に基づいて質の高い保健医療サービスを提供する実践能力
- ② 保健医療分野における幅広い見識と優れた判断力に基づくリーダーシップを発揮し、他の分野と連携して組織的に問題を解決し、役割を遂行する指導能力及び調整能力
- ③ 保健医療の現場における専門分野の現任教育を推進し、または大学等において専門分野の基礎教育を実施する教育能力
- ④ 博士後期課程の教授研究の基盤となる研究能力を有し、保健医療の現場において生じる問題の解決を図るための実践研究を自立して遂行する研究能力

## ADMISSION POLICY

## アドミッション・ポリシー

[ 入学者受入れの方針 ]

▶▶▶ P13 (入試概要) でご確認ください。

## CURRICULUM POLICY

## カリキュラム・ポリシー [ 教育課程編成・実施の方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士前期課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するため、以下のとおり教育課程を編成します。

- ① 教育課程は保健医療分野に共通する知識・技術及び態度を涵養する共通科目と、看護学、リハビリテーション学、病因・病態検査学、放射線学、臨床工学、公衆衛生学におけるそれぞれの専門性を探究する専門科目の2つの科目群で構成する。
- ② 少人数教育の利点を活かし、学習者の志向・ニーズに対応できる柔軟で特色のある教育を提供する。
- ③ 共通科目には、以下の内容の授業科目を配置する。
  - (1) 保健医療分野における倫理的態度を身につけるための科目
  - (2) 保健医療の実践現場で教育を実践するための理論的基盤を身につけるための科目
  - (3) 人文科学・社会科学の広い視野に立って保健医療分野の諸課題を捉えるための科目
  - (4) 保健医療分野で必要とされる基礎的及び発展的知識・技能を身につけるための科目
  - (5) 保健医療分野の研究に共通する知識の習得、専門領域における研究方法の特徴の理解、及び自らの研究課題に適した方法の選択と遂行に必要な知識を身につけるための科目
- ④ 専門科目には、各領域の「研究方法論」を置く。また、専門領域毎に複数の体系化された「特論」、「演習」と1つの「特別研究」を置き、学生が選択する体系の「特論」、「演習」と「特別研究」の履修を2年間の学修の中軸とする。体系化された「特論」、「演習」と「特別研究」は原則として同一の特別研究指導教員または特別研究指導補助教員が担当する。その他、専門分野における実践能力を幅広く育成するため、体系に属さない「特論」を配置する。
- ⑤ 専門科目の「特論」は所属領域に関わりなく選択履修を可能とし、学生のニーズに応じて関連分野について広く学ぶ機会を提供する。なお、公衆衛生学領域の学生については、公衆衛生学の基礎となる「特論」の履修を必須とする。
- ⑥ 学生が選択する体系の「特論」、「演習」を1年次、「特別研究」を2年次に選択履修させることにより、研究活動の準備から遂行までを入学初期から段階的に進め、最終的に修士論文を完成させる。
- ⑦ 当該学生が選択する体系の「特論」、「演習」、「特別研究」を除く選択科目は履修すべき学年を特定せず、柔軟な履修計画を保障する。
- ⑧ 家庭や職場など社会的事情により標準修業年限(2年)での修了が困難な場合に、標準修業年限を超えて履修可能な長期履修制度を設ける。
- ⑨ 授業科目の成績評価は別に定める「成績評価方法・基準」による。修士論文の評価は同じく別に定める「博士前期課程 学位論文審査の評価基準」による。

# 博士前期課程 カリキュラム

科目区分	授業科目名			
共通科目	医療倫理学特論	公衆衛生学総論	データ分析特論	研究方法特論
	教育学特論	抗加齢医学特論	医療安全管理学特論	保健科学特別セミナー
	社会学特論	生殖補助医療技術学特論	情報アクセシビリティ学特論	
	国際保健政策特論	医療情報科学特論	応用英語	

科目区分	授業科目名				
専門科目	看護学領域	看護学研究方法論	ウィメンズヘルス・助産学特論	発達看護学演習	看護学特別研究
		成人看護学特論	ウィメンズヘルス・助産学演習	地域・在宅看護学特論	看護マネジメント特論
		成人看護学演習	発達看護学特論	地域・在宅看護学演習	精神看護学特論
	リハビリテーション学領域	リハビリテーション学研究方法論	総合理学療法学演習	総合作業療法学演習	リハビリテーション教育学特論
		総合理学療法学特論	総合作業療法学特論	リハビリテーション学特別研究	コミュニケーション障害学特論
	病因・病態検査学領域	病因・病態検査学研究方法論	遺伝子・血液情報検査学演習	組織細胞・生殖補助技術学演習	病態検査解析学特論
		病態免疫化学検査学特論	生体分子情報検査学特論	生体機能検査学特論	
		病態免疫化学検査学演習	生体分子情報検査学演習	生体機能検査学演習	
		遺伝子・血液情報検査学特論	組織細胞・生殖補助技術学特論	病因・病態検査学特別研究	
	放射線学領域	放射線学研究方法論	放射線防護学特論	放射線利用学演習	
		放射線教育学特論	放射線防護学演習	放射線学特別研究	
		放射線教育学演習	放射線利用学特論	放射線学特論	
臨床工学領域	臨床工学研究方法論	生体情報医工学演習	生体機能医工学演習	臨床工学特論	
	生体情報医工学特論	生体機能医工学特論	臨床工学特別研究		
公衆衛生学領域	疫学特論	公衆衛生学研究方法論	身体活動疫学特論	感染症学特論	
	生物統計学特論	感染症疫学・感染制御学特論	身体活動疫学演習	先端感染制御学特論	
	健康行動科学特論	感染症疫学・感染制御学演習	保健医療情報学特論		
	環境保健学特論	公衆衛生看護学特論	保健医療情報学演習		
	健康・医療政策特論	公衆衛生看護学演習	公衆衛生学特別研究		



# 博士前期課程 履修モデル

## ◆ 看護学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	教育学特論	2
	共通	データ分析特論	2
	共通	社会学特論	2
	共通	応用英語	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	看護学研究方法論	1
	専門	看護マネジメント特論	2
	専門	地域・在宅看護学特論	2
	専門	地域・在宅看護学演習	2
2年次	共通	医療倫理学特論	2
	専門	看護学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ リハビリテーション学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	教育学特論	2
	共通	応用英語	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	データ分析特論	2
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	リハビリテーション学研究方法論	1
	専門	コミュニケーション障害学特論	2
	専門	総合理学療法学特論	2
	専門	総合理学療法学演習	2
	2年次	共通	情報アクセシビリティ学特論
専門		リハビリテーション学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 病因・病態検査学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	生殖補助医療技術学特論	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	病因・病態検査学研究方法論	1
	専門	病態検査解析学特論	2
	専門	遺伝子・血液情報検査学特論	2
	専門	組織細胞・生殖補助技術学特論	2
	専門	病態免疫化学検査学特論	2
	専門	病態免疫化学検査学演習	2
2年次	共通	応用英語	2
	専門	病因・病態検査学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 放射線学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	教育学特論	2
	共通	応用英語	2
	共通	データ分析特論	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	放射線学研究方法論	1
	専門	放射線防護学特論	2
	専門	放射線学特論	2
	専門	放射線利用学特論	2
	専門	放射線利用学演習	2
2年次	専門	放射線学特別研究	10
単位合計		30 単位	

## ◆ 臨床工学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	教育学特論	2
	共通	データ分析特論	2
	共通	医療安全管理学特論	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	応用英語	2
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	臨床工学研究方法論	1
	専門	臨床工学特論	2
	専門	生体情報工学特論	2
	専門	生体情報工学演習	2
	2年次	専門	臨床工学特別研究
単位合計		30 単位	

## ◆ 公衆衛生学領域

年次	科目区分	授業科目名	単位
1年次	共通	医療倫理学特論	2
	共通	研究方法特論	1
	共通	保健科学特別セミナー	2
	専門	疫学特論	2
	専門	生物統計学特論	2
	専門	健康行動科学特論	2
	専門	環境保健学特論	2
	専門	公衆衛生学研究方法論	1
	専門	感染症疫学・感染制御学特論	2
	専門	感染症疫学・感染制御学演習	2
	2年次	専門	健康・医療政策特論
専門		公衆衛生学特別研究	10
単位合計		30 単位	

# 博士後期課程

【学 位】博士(医療科学)

【修業年限】3年 ★長期履修制度あり(裏表紙参照)

【募集人員】2名



## 医療科学領域

生体分子

病原体遺伝子

細胞機能

生殖補助技術

生体機能

群馬パース大学大学院博士後期課程は、前期課程で基礎研究力の高い病因・病態検査学領域の研究内容や高度解析技術を発展させ、生体分子、病原体遺伝子、細胞機能、生殖補助技術、生体機能などの「医療科学」に焦点をあてています。科学的エビデンスを構築しながら、健康保持と疾病予防のための基礎研究、さらに疾病を早期に診断するための疾患バイオマーカーの検索・開発研究などが行える質の高い医療人(研究者、教育者等)の養成を目指します。

## 教育目標

大学院博士前期課程における教育・研究を通して培われた知識や技術による高度な専門能力を更に高め、医療科学分野において国際的な視点に立ち、自ら独創性の高い研究を遂行、指導できる研究者、教育者、実践者及び指導者を育成します。

- 1 独創性・創造性に優れ、国際的に通用する研究を自立して遂行できる研究者の育成
- 2 医療・保健科学分野の教育を行う大学院において、専門分野の高度な教育・研究指導ができる教育者・指導者の育成
- 3 保健医療の現場において、研究活動と高度な実践を連動させ、保健医療の質向上を牽引する卓越した実践者の育成
- 4 科学的エビデンスを構築しながら開発研究を行い、社会実装につながる価値を創出できる研究者の育成

### DIPLOMA POLICY

## ディプロマ・ポリシー [ 修了認定・学位授与の方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程においては、次の能力を身につけていると認められた者で、かつ所定の単位を修得し、学位論文審査に合格した者に対して修了を認定し、博士(医療科学)の学位を授与します。

- 1 独創性・創造性に優れ、国際的に通用する研究を自立して遂行する研究能力
- 2 医療・保健科学分野の教育を行う大学あるいは大学院において専門分野の高度な教育・研究指導を行う教育指導能力
- 3 保健医療の現場において、研究活動と高度な実践を連動させ、保健医療の質向上を牽引する実践能力
- 4 科学的エビデンスを構築しながら開発研究を行い、社会実装につながる価値を創出できる応用能力

### ADMISSION POLICY

## アドミッション・ポリシー

[ 入学者受入れの方針 ]

▶▶▶ P14 (入試概要) でご確認ください。

CURRICULUM POLICY

## カリキュラム・ポリシー [ 教育課程編成・実施の方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を育成するため、以下のとおり教育課程を編成します。

- 1 教育課程は保健医療分野の研究に通底する倫理的態度を培うための共通科目、研究分野ごとに体系化された複数の「研究法」、「特講」及び「演習」からなる専門科目及び「特別研究」で構成する。
- 2 全教育課程を通して、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力、創造性豊かで優れた研究・開発能力を涵養する教育内容を提供する。
- 3 共通科目には、人間の尊厳の尊重と社会的公正に基づき研究を計画、遂行する能力を培うための「生命研究倫理論」を配置する。
- 4 専門科目の「医療科学研究法」では、自らの研究分野における研究方法について広く学び、課題に適した方法を選択できる能力を修得することを目指す。「特講」では、科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目指す。また、「演習」では、英文文献講読と教員との討論をとおして各研究分野の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させるとともに、研究の評価・応用能力を養い、国際的な情報発信ができる能力を修得することを目指す。
- 5 「特別研究」では、医療科学における新たな知見を得るための研究を行い、英文論文として公表する。
- 6 授業科目の成績評価は別に定める「成績評価方法・基準」による。博士論文の評価は同じく別に定める「博士後期課程 学位論文審査の評価基準」による。

## 博士後期課程 カリキュラム

共通科目	専門科目	特別研究
<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 生命研究倫理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 医療科学研究法（生体分子・病原体遺伝子）</li> <li><input type="checkbox"/> 医療科学研究法（細胞機能・生殖補助技術）</li> <li><input type="checkbox"/> 医療科学研究法（生体機能）</li> <li><input type="checkbox"/> 特講（生体分子・病原体遺伝子）</li> <li><input type="checkbox"/> 特講（細胞機能・生殖補助技術）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 医療科学特別研究</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 特講（生体機能）</li> <li><input type="checkbox"/> 演習（生体分子・病原体遺伝子）</li> <li><input type="checkbox"/> 演習（細胞機能・生殖補助技術）</li> <li><input type="checkbox"/> 演習（生体機能）</li> </ul>	

## 博士後期課程 履修モデル

### CASE 1 （3年間で履修する場合）

経歴	医療系大学を卒業後、検査医学系大学院修士課程を修了
論文テーマ	血小板の活性化に伴う血管構成細胞の動態に関する研究
修了後の役割	血液細胞学を専門として教育・研究活動を行う大学教員

#### ◆ 履修例

	授業科目	単 位	履修時期
共通科目	生命研究倫理論	2	1年次前期
専門科目	医療科学研究法（細胞機能・生殖補助技術）	2	1年次前期
	特講（細胞機能・生殖補助技術）	2	1年次前期
	演習（細胞機能・生殖補助技術）	2	1年次後期
特別研究	医療科学特別研究	6	1～3年次

### CASE 2 （長期履修：4年間で履修する場合）

経歴	医療機器・試薬企業の学術研究者
論文テーマ	ビリルビン測定試薬成分と反応する異常免疫グロブリンの構造解析と反応メカニズムに関する研究
修了後の役割	企業での異常反応阻止試薬の開発研究に携わるリーダー的指導者

#### ◆ 履修例

	授業科目	単 位	履修時期
共通科目	生命研究倫理論	2	1年次前期
専門科目	医療科学研究法（生体分子・病原体遺伝子）	2	1年次前期
	特講（生体分子・病原体遺伝子）	2	1年次前期
	演習（生体分子・病原体遺伝子）	2	1年次後期
特別研究	医療科学特別研究	6	1～4年次

# 博士前期課程 特別研究指導教員

<p><b>小林 亜由美</b> Kobayashi Ayumi</p>	<p><b>看護学領域</b> <b>地域・在宅看護学</b></p> <p>地域看護学・公衆衛生看護学に関する研究課題に取り組みます。地域で生活する新生児～高齢者を対象に、日常生活習慣と健康との関連や、疾病予防、健康づくりのための看護活動について取り上げます。また、様々な健康レベルの人々を支えるためのケアシステムの構築とその推進方法に関する研究課題に取り組みます。</p>
<p><b>中島 久美子</b> Nakajima Kumiko</p>	<p><b>看護学領域</b> <b>ウイメンズヘルス・助産学</b></p> <p>ウイメンズヘルス・助産学では、Women-centered care(女性を中心にしたケア)を重視し、実践と研究を推進します。女性の一生にわたる健康の視点から、心身社会的な健康の側面を統合的に捉えた支援を展開します。助産学は、妊娠・出産・育児期にある女性とパートナーに対して安全で安心できる助産ケアを実践し、研究課題について取り組みます。</p>
<p><b>中下 富子</b> Nakashita Tomiko</p>	<p><b>看護学領域</b> <b>発達看護学</b></p> <p>小児看護学はあらゆる健康レベルの子どもと家族を対象としています。子ども一人ひとりの最高の健康状態の維持、成長発達を追及すべく、多様な健康課題の解決に向けて子どもや家族への直接的な支援、保健・教育・医療・福祉等専門職との協働・連携による間接的な支援に関する研究課題について取り組みます。</p>
<p><b>佐藤 満</b> Sato Mitsuru</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合理学療法学</b> <b>地域理学療法学</b></p> <p>介護を要する高齢者の自立支援や介護予防に関連した転倒リスク評価の手法について、特に感覚機能に着目した方法論の効果について理解を深めます。また単に身体機能の維持改善の働きかけにとどまらず、役割の再獲得や近隣社会への参加を促す支援の方法論、およびその効果判定への理解を深めて、学術的な研究へと発展させます。</p>
<p><b>加茂 智彦</b> Kamo Tomohiko</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合理学療法学</b> <b>臨床理学療法学</b></p> <p>臨床理学療法学に関する研究は、リハビリテーションが必要な対象者に対して、理学療法の新たな治療法の開発、効果・要因の検証、評価方法の開発など、臨床の疑問を解決することを目的としています。研究課題として前庭理学療法、サルコペニア・フレイル、データベースを用いたリハビリの効果判定など主に臨床研究に関して指導を行います。</p>
<p><b>村田 和香</b> Murata Waka</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合作業療法学</b> <b>作業療法理論</b></p> <p>作業を治療に用いてきた作業療法の実践の可視化、すなわち、論理的に説明し、実証的に明らかにすることを目的とした研究を目指します。人と環境、作業の相互作用、作業と健康の関連性、および、作業療法の効果判定の確立等について、説明することを目標としています。</p>
<p><b>石井 良和</b> Ishii Yoshikazu</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合作業療法学</b> <b>作業行動学</b></p> <p>人の作業には意志、習慣化、遂行能力といった個人的資質と環境が影響しますが、それらをシステム論的に理解することで疾患名にとらわれないアプローチが可能となります。具体的には人間作業モデルを理解し、柔軟に用いることを想定しています。そのため人間作業モデルに関連する諸概念、システム論、現象学などの理解をもとに研究課題に取り組みます。</p>
<p><b>竹原 敦</b> Takehara Shun</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合作業療法学</b> <b>認知症作業療法学</b></p> <p>保健、医療、福祉、介護の研究課題の中から、認知症高齢者を対象に、人生における社会的役割や習慣の構造の変化と健康およびその評価、認知症の人の行動・心理症状と社会適応、認知症の人の社会的認識の促進と家族支援、地域包括ケアシステムにおける評価と関与など臨床実践に関連する視点についての研究課題に取り組みます。</p>
<p><b>近藤 健</b> Kondo Ken</p>	<p><b>リハビリテーション学領域</b> <b>総合作業療法学</b> <b>臨床作業療法学</b></p> <p>作業療法における実践の開発・効果の検証方法の理解を深めます。例えば、新しい技術の応用(3Dプリント技術、エクサゲーム等)、作業を用いた実践の新しい戦略(調理練習、手工芸等)、効果的なチーム医療モデルの検証です。国際的視座に基づいた研究の発展と臨床現場への還元を目指します。</p>

<p><b>松下 誠</b> Matsushita Makoto</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>生体分子情報検査学</b></p> <p>酵素検査はそのタンパク量を測定するのではなく、活性値として定量することで標準化がなされてきた経緯があります。しかし、酵素活性はアイソザイムの相違によって変動することから、本来の病態を反映しない異常検査データが出現することがあります。このようなアイソザイムの相違に伴う酵素検査の課題を解明・改善する研究を行います。</p>
<p><b>山田 俊幸</b> Yamada Toshiyuki</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>生体分子情報検査学</b></p> <p>血液中にみられるタンパク質を血漿タンパクと呼びます。血漿タンパクの中には、疾患マーカーとしてまだ見出されていないものも多く、またその濃度が増えることで臓器に沈着したり、その遺伝多型や分子修飾が疾患のなり易さに関連するものがあります。抗体による免疫化学、プロテオミクス、遺伝子解析などを駆使して血漿タンパクの魅力に迫ります。</p>
<p><b>高橋 克典</b> Takahashi Katsunori</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>病態免疫化学検査学</b></p> <p>サイトカインは、主に免疫細胞などから分泌される低分子蛋白で、細胞間情報伝達物質としての役割を担っています。博士前期課程では、免疫系培養細胞が分泌する各種サイトカインを指標とした創薬スクリーニングにより、合成化合物の中から免疫学的薬理作用を有する新薬候補を探索します。また、細胞内シグナル解析技術などを駆使し、候補化合物の作用メカニズムの解明を目指します。</p>
<p><b>林 由里子</b> Hayashi Yuriko</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>遺伝子・血液情報検査学</b></p> <p>本研究室では、末梢血細胞を対象として、免疫老化、炎症制御、加齢関連病態の解明に取り組んでいます。単球・好中球をはじめとする血液細胞の機能解析を通して、インフラメイジングや炎症応答の分子機構を明らかにし、新たな評価指標やバイオマーカーの構築を目指しています。さらに、これらの知見を健康寿命延伸や予防医学へ応用することを目指します。</p>
<p><b>木村 鮎子</b> Kimura Ayuko</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>生体分子情報検査学</b></p> <p>タンパク質は細胞内で絶えず量的・質的に変化しながら多彩な機能を発現し、生命活動に必須の役割を果たしています。最新の高感度質量分析計を用いてタンパク質の時空間的变化を網羅的に解析することにより、医療分野の重要課題の一つである老化や病原菌の薬剤耐性化に関わる種々のタンパク質を明らかにし、新たな診断法や治療戦略の創出を目指します。</p>
<p><b>荒木 泰行</b> Araki Yasuyuki</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>組織細胞・生殖補助医療技術学</b></p> <p>体外受精や顕微授精に代表される生殖補助医療は、現在では一般的な治療として実施されています。配偶子の成熟、精子と卵子の受精、受精後の胚の培養、凍結保存など、精子や卵子を取り扱う技術は多岐に渡ります。生殖補助技術は常に進化していますので、関連技術の開発につながるような研究を目指します。</p>
<p><b>柳田 絵美衣</b> Yanagita Emmy</p>	<p><b>病因・病態検査学領域</b> <b>病因・病態検査学</b> <b>組織細胞・生殖補助医療技術学</b></p> <p>病変組織や細胞の形態的特徴を対象として、顕微鏡観察によるがん細胞の同定や病態解析、およびその臨床的意義について研究を行います。また、デジタル画像解析技術を活用した客観的な評価手法の構築や、個々の病態に最適な薬物療法を選択するためのバイオマーカー解析を通じ、診断精度の向上と個別化医療への有用性を検証する研究を行います。</p>
<p><b>渡邊 浩</b> Watanabe Hiroshi</p>	<p><b>放射線学領域</b> <b>放射線防護学</b></p> <p>放射線や放射性物質を医療利用する放射線診療により患者さんが受ける医療被ばくの適正管理、医療従事者の職業被ばくの低減ならびにリスクコミュニケーション等の放射線防護学に関する研究を行います。また、患者さんの病態や臓器の機能を診断情報として提供できる核医学の特性と安全方策に関する研究を行います。</p>
<p><b>西澤 徹</b> Nishizawa Toru</p>	<p><b>放射線学領域</b> <b>放射線教育学</b></p> <p>放射線学領域の教育系研究には、学校教育法、医療法などの関連法令、医療安全、臨床実習、新人教育など様々な研究テーマがあります。それぞれの教育の場における理念に基づいた過程の中で、法令の理解と解釈、教育手法や評価方法の開発、教育効果の検証を行っていきます。また、医療者教育を適切に実践できる教育研究者の育成を目指します。</p>
<p><b>高橋 哲彦</b> Takahashi Tetsuhiko</p>	<p><b>放射線学領域</b> <b>放射線利用学</b></p> <p>医療放射線機器はX線装置システム、X線CT装置、MRI、超音波画像診断装置など多岐にわたり、機器に関する技術は日々進歩しています。新しい技術を診療放射線技師の視点から性能評価することは大切です。特別研究では、技術の深い理解と使用者視点に基づき、MRIなどの装置・技術の評価に関する研究を行います。</p>

<p><b>大濱 和也</b> Ohama Kazuya</p>	<p><b>臨床工学領域 生体機能医工学</b></p> <p>高度先進医療における医療機器の研究開発は、これからの医療に大きく貢献します。企業と現場をつなぎ、現場からのアイデアを医療機器開発に取り入れ製品化します。また、人の体における相互作用を有する医用材料は生体反応との適合が必要です。人工臓器分野では、材料の適合性は必須であり、生体が異物反応を示さない材料の研究、開発に取り組みます。</p>
<p><b>花田 三四郎</b> Hanada Sanshiro</p>	<p><b>臨床工学領域 生体情報医工学</b></p> <p>ヒト細胞から生体臓器代替物を生体外で再構築する組織工学は、バイオ人工臓器の開発や再生医療に貢献する可能性があります。スフェロイド・オルガノイドといった細胞凝集体や再構成血管網の三次元培養技術を細胞生物学と医工学の両面から検討し、「かたち」と「機能」を持った三次元臓器を構築する方法論について研究します。</p>
<p><b>矢島 正栄</b> Yajima Masae</p>	<p><b>公衆衛生学領域 公衆衛生看護学</b></p> <p>公衆衛生看護学に関する研究課題として、地域活動の展開に関する方法の開発や評価、保健計画の策定、遂行、および評価に関わる保健師の機能に関する研究について指導します。また、対象別地域支援のマネジメント、地域ケアシステムの構築、特に、母子保健、精神障害者保健福祉、発達障害者（児）支援、難病療養者の支援に関する研究について指導します。</p>
<p><b>木村 博一</b> Kimura Hirokazu</p>	<p><b>公衆衛生学領域 感染症疫学・感染制御学</b></p> <p>先端病原体ゲノム解析法（シーケンス法およびメタゲノム解析法など）を基盤とした分子疫学解析法について学びます。また、病原体抗原遺伝子配列に、先駆的 in silico 解析を加え、感染症の原因究明、ワクチン開発のみならず、集団感染事例における感染源の特定などに関する解析手法論についても学びます。</p>
<p><b>木村 朗</b> Kimura Akira</p>	<p><b>公衆衛生学領域 身体活動疫学</b></p> <p>個人・集団の生体機能や健康度に及ぼす身体活動と環境の複合要因の影響を解析し健康リスクを軽減するための身体活動定量技術・情報化・介入技術と疫学・生物統計手法を指導します。公衆衛生・理学療法・リハビリテーション等の社会臨床疫学課題を設定し研究遂行から論文作成、ヘルスコミュニケーションについて指導します。</p>
<p><b>星野 修平</b> Hoshino Syuhei</p>	<p><b>公衆衛生学領域 保健医療情報学</b></p> <p>チーム医療・多職種連携で実践される現代医療を実践する医療専門職の機能と役割について医療情報学、行動経済学、医療政策、データサイエンスなどを基盤として学び、保健医療福祉における政策立案の基となるデータをモデル化し、行政的知識、組織運営、環境整備などの実践的技術と計画立案との調整について研究指導を行います。</p>

# 博士後期課程 特別研究指導教員

<p><b>松下 誠</b> Matsushita Makoto</p>	<p><b>医療科学領域 生体分子</b></p> <p>アイソザイムを有する酵素はその活性値とタンパク量との関係を解析することは困難と考えられています。私たちはLD やCKのように異なるサブユニットの組み合わせから成る酵素はそのサブユニット間の相対活性が算出可能であることを明らかにしています。このように、酵素活性とそのタンパク量との関係を解析し、医療に貢献する研究を行います。</p>
<p><b>高橋 克典</b> Takahashi Katsunori</p>	<p><b>医療科学領域 生体分子</b></p> <p>セクトーム解析とは、質量分析計を用いて細胞培養上清中のタンパク質を網羅的に解析する技術であり、バイオマーカーの探索などに応用されています。博士後期課程では、この最新技術を用いて人工合成化合物の添加前後で変動する各種タンパク質の発現量を比較解析し、薬理的に有意義なタンパク質を標的とする化合物の探索およびその作用メカニズムの解明を主な研究の目的とします。</p>
<p><b>木村 鮎子</b> Kimura Ayuko</p>	<p><b>医療科学領域 生体分子</b></p> <p>タンパク質の量的な変化と翻訳後修飾・プロセッシングなどによる構造変化は、多様な生体機能の発現や調節に関わっています。質量分析や電気泳動を用いたさまざまなタンパク質解析技術を駆使してこれらの変化を捉え、その機能や病態機構との関連を解明していくことで、さまざまな疾患の診断法や治療法の開発につながる研究を目指します。</p>
<p><b>木村 博一</b> Kimura Hirokazu</p>	<p><b>医療科学領域 生体分子・病原体遺伝子</b></p> <p>薬剤耐性遺伝子/蛋白、呼吸器ウイルス(RSウイルス・ヒトライノウイルスなど)および下痢症ウイルス(ノロウイルス・サポウイルスやロタウイルスなど)の分子疫学・進化的解析を基盤とした研究指導を行います。また、抗ウイルス薬の探索、サイトカインなどのような生体調節分子の網羅解析や分子間相互作用解析に関する研究指導も行います。</p>
<p><b>荒木 泰行</b> Araki Yasuyuki</p>	<p><b>医療科学領域 生殖補助技術</b></p> <p>臨床や生殖関連研究の発展に不可欠ではあるにも関わらず、現状解決されていないテーマは沢山存在しています。配偶子の新しい体外培養方法、顕微授精に代わる受精技術等、特にマニピュレーションを用いた卵子や精子および胚を操作する技術や未成熟生殖細胞の体外成熟培養などの技術開発を目指します。</p>
<p><b>花田 三四郎</b> Hanada Sanshiro</p>	<p><b>医療科学領域 細胞機能・生体機能</b></p> <p>ヒト細胞を基盤とした三次元培養により生体臓器代替物を構築する組織工学を扱い、細胞生物学と医工学の融合的知識に基づき、組織再生や血管網構築を研究します。さらに、構築組織の「かたち」と「機能」を統合的に評価し、生体計測と連動した新規機能評価系の開発を行います。</p>
<p><b>佐藤 満</b> Sato Mitsuru</p>	<p><b>医療科学領域 生体機能</b></p> <p>高齢者の介護予防や自立支援に欠かせない転倒リスク評価と転倒予防介入戦略の手法について、その効果判定を含めて理解を深めて、研究課題として取り組みます。また、身体機能への働きかけにとどまらず、役割の再獲得や近隣社会への参加を促す支援の方法論、およびその効果判定への理解を深めて、学術的な研究へと発展させます。</p>
<p><b>木村 朗</b> Kimura Akira</p>	<p><b>医療科学領域 生体機能</b></p> <p>人間の身体活動定量化の利活用方法を開発し、糖尿病や脳血管機能障害のある人や身体活動の支援を必要とする集団等における生体機能を良好に保つ複合要因システムの最適化を目指す研究能力を養います。公衆衛生・リハビリテーションにおける課題解決に資する知見の国際的発信を行う研究の実践および指導を行います。</p>
<p><b>宗宮 真</b> Sohmiya Makoto</p>	<p><b>医療科学領域 生体機能</b></p> <p>神経変性疾患の代表的疾患であるパーキンソン病は、運動症状のほか、認知機能障害や自律神経症状等のさまざまな非運動症状を示します。こうした多様な症状を示す本疾患の特徴に焦点をあて、動作解析、神経心理学的検査、画像解析等の手法を用いて、発症と進行のメカニズムや治療へのアプローチに関する研究の実践および指導を行います。</p>
<p><b>渡邊 浩</b> Watanabe Hiroshi</p>	<p><b>医療科学領域 生体機能</b></p> <p>放射線や放射性物質を利用する場合には、法令ならびに関係学会のガイドラインを順守しなければなりません。これらの法令やガイドラインに示される基準は公正でなおかつ根拠(研究論文)に基づかなければなりません。これによって、国民や医療従事者の安全が担保されます。放射線安全利用や国民・医療従事者の安全を担保するための研究を行います。</p>

# 入試概要

※ 出願手続きの前に、希望する指導教員(未定の方は研究科長)と履修や研究に関する事前相談を面談、メール、電話等により、できるだけ行ってください。  
 ※ 詳しくはホームページまたは学生募集要項でご確認ください。

保健科学研究科 / 保健科学専攻

## 博士前期課程

検定料  
30,000円

### ADMISSION POLICY

#### アドミッション・ポリシー [ 入学者受入れの方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士前期課程は、高度な学術的基盤と優れた創造性を培い、次世代を担う研究能力を備えた研究者、教育者、実践者及び指導者を育成するという目的のもと、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに示す教育内容を踏まえ、以下の知識・技能・態度を備えた入学者を受け入れます。

- 1 大学卒業相当の学力があり、専攻する領域の基礎的な知識・技能を備えた人
- 2 保健医療分野の英文論文を読んで理解できる程度の語学力を持つ人
- 3 保健医療分野において他の分野と連携し社会に貢献したいと考えている人
- 4 実践上の問題を抽出・分析し、その解決を図ることに努力を惜しまない人
- 5 保健医療に関連する国内外の情勢や課題に強い関心があり、熱意をもって学ぶことができる人

### 募集人員

専攻	領域	募集人員
保健科学専攻 (博士前期課程)	看護学領域	8名
	リハビリテーション学領域	
	病因・病態検査学領域	
	放射線学領域	
	臨床工学領域	
	公衆衛生学領域	

### 入学試験

#### 試験科目

英語	英語外部 検定試験	英語外部検定試験[TOEIC(L&R)、TOEFL-iBT]の成績に基づき得点換算*(本学個別試験実施なし) ※出願時に、出願期間最終日から2年以内に受験した公式スコアまたは公式認定証を提出すること
小論文	60分	保健医療分野に関する知識および思考力を問う*
面接	30分程度	個別面接

\*「英語」における英語外部検定試験の得点換算および小論文の出題については、本学ホームページまたは学生募集要項にてご確認ください。

## 2027年度 入学試験日程

入試区分	博士前期課程・博士後期課程 (同日実施)	
	I 期	II 期
出願期間	2026年9月1日(火) ～2026年9月15日(火)消印有効	2026年11月30日(月) ～2026年12月11日(金)消印有効
試験日	2026年9月26日(土)	2026年12月19日(土)
合格発表	2026年10月1日(木)	2026年12月24日(木)
入学手続き 期限	2026年10月16日(金)消印有効	2027年1月18日(月)消印有効

(注) 入学者に欠員が生じた場合は、追加募集を行うことがあります。その場合は、本学ホームページでお知らせいたします。

保健科学研究科／保健科学専攻

# 博士後期課程

検定料  
30,000円

## ADMISSION POLICY

### アドミッション・ポリシー [ 入学受入れの方針 ]

群馬パース大学大学院保健科学研究科保健科学専攻博士後期課程は、高度な学術的基盤と優れた創造性を培い、次世代を担う研究能力を備えた研究者、教育者、実践者及び指導者を育成するという目的のもと、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに示す教育内容を踏まえ、以下の知識・技能・態度を備えた入学受入れを行います。

- ① 修士の学位を取得している、またはこれに相当する学力及び研究能力を備えた人
- ② 自らの研究テーマと研究活動の展望について英語で論述できる程度の語学力を持つ人
- ③ 高度な研究能力を身につけ、次のいずれかの力を発揮し、社会に貢献する意欲のある人
  - (1) 研究機関において、高度な学術の理論を構築し、応用し、または新たな技術を開発するための研究を行う。
  - (2) 医療・保健科学分野の教育を行う大学、大学院において、教育・研究指導に携わる。
  - (3) 保健医療の現場において、研究活動と高度な実践を連動させ、保健医療の質向上を牽引する。

## 募集人員

専攻	領域	募集人員
保健科学専攻 (博士後期課程)	医療科学領域	2名

## 入学試験

### 試験科目

英語	① 英語外部 検定試験	英語外部検定試験[TOEIC(L&R)、TOEFL-IBT]の成績に基づき得点換算* ※出願時に、出願期間最終日から2年以内に受験した公式スコアまたは公式認定証を提出すること
	② 筆記試験 50分	200単語程度の医療科学に関する英作文 ※和英・英和辞書持ち込み可 (電子辞書不可)
口述	30分	発表・質疑応答(パソコン持参) ※スマートフォン不可
面接	20分程度	個別面接 ※入学後の研究計画等の口頭試問含む

\*「英語」における英語外部検定試験の得点換算については、本学ホームページまたは学生募集要項にてご確認ください。

## 特待生選抜(博士前期課程)

学業優秀で明確な研究目的を持つ者が、経済的な理由により進学を断念することがないよう、学費の一部を「特待生奨学金」として給付(免除)し、その奨学に資するとともに、大学院における教育・研究水準の向上を図ることを目的として、入学試験の成績を審査し特待生を選抜します。

選抜対象者：入学試験1期受験者のうち、特待生選抜希望者

特待生 S	最大2年間の授業料等 全額免除
-------	--------------------

特待生 A	最大2年間の授業料等 後期分全額免除
-------	-----------------------

※特待生選抜希望者には、別途「英語(筆記試験)」を実施します。  
詳しくは学生募集要項にてご確認ください。

入試に関する詳細はこちら



# 初年度納入金

## 保健科学研究科／保健科学専攻 博士前期課程

初年度納入金		備考
学納金	入学金	100,000円 初年度のみ 入学手続き時納入
	年額	950,000円 前期+後期(2年次同額)
	授業料等	(前期:475,000円) 入学手続き時納入
		(後期:475,000円) 入学後、所定の期日までに納入
諸費用*	42,750円 学生支援費、学生保険料等	
入学手続き時納入金		617,750円 入学金+初年次前期授業料等+諸費用

\*諸費用は予定であり、変更する場合があります。

### 【2年次以降について】

入学金を除く授業料等の前期分及び後期分を、本学からの通知後、所定の期日までに納入していただきます。

### 【同窓生奨学金】(所得基準あり)

本学の学部卒業生ならびに大学院博士前期課程修了生で、経済的理由により修学困難な方に、入学金相当額を給付(免除)します。※入学後申請

## 長期履修制度について

長期履修制度は、職業を有していること等による修学の困難さに対して、標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができるものです。

### ▶対象者

- (1)入学時において有職者で、業務のため授業及び研究指導を受ける時間に著しく制約を受ける者
- (2)家事、育児、出産、介護等の諸事情により授業及び研究指導を受ける時間に著しく制約を受ける者
- (3)その他本研究科が相当の事情があると認めた者

※本制度を利用することが適切かどうか、研究指導希望教員と事前によくご相談ください。

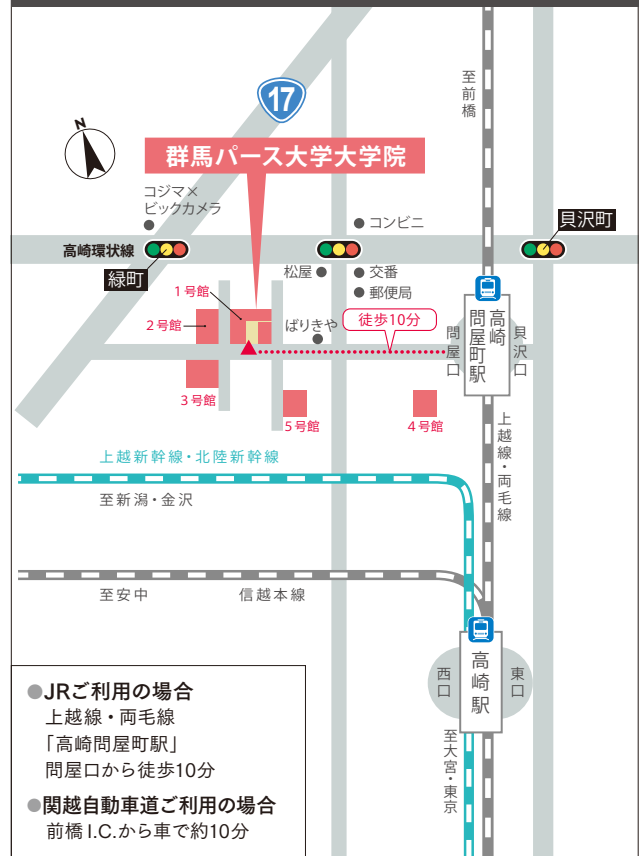
※詳細はホームページでご確認ください。



## 保健科学研究科／保健科学専攻 博士後期課程

初年度納入金		備考
学納金	入学金	100,000円 初年度のみ 入学手続き時納入
	年額	700,000円 前期+後期(2、3年次同額)
	授業料等	(前期:350,000円) 入学手続き時納入
		(後期:350,000円) 入学後、所定の期日までに納入
諸費用*	54,100円 学生支援費、学生保険料等	
入学手続き時納入金		504,100円 入学金+初年次前期授業料等+諸費用

## ACCESS



問い合わせ先

群馬パース大学 入試広報課

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町1-7-1

TEL.027-365-3370(入試広報課直通)

TEL.027-365-3366(代表)

FAX.027-365-3367

ホームページアドレス▼

www.paz.ac.jp/gs/

E-mail ▼

nyushi-koho@paz.ac.jp

